

---

# 冥王星をよろしく！

日平 雅人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

冥王星をよろしく！

### 【Nコード】

N52880

### 【作者名】

日平 雅人

### 【あらすじ】

秋の短編祭り第二弾！！ 地球人の一般少年一光は、突如空から落下してきた冥王星王女に拉致られ、冥王星へ連行される事！！そして、その事が宇宙での惑星間戦争の運命を大きく変える事になる！！

## （前書き）

どうも!!

秋の短編祭り第二弾は、宇宙SF大バトル「冥王星をよろしく!」。

では早速どうぞ!!

水金地火木土天海……

今の学校の教科書では、天体はこのように記されている。

水星

金星

地球

火星

木星

土星

天王星

海王星

しかし、昔は違ったのだ。

水金地火木土天海……冥

そう、冥王星。

「大変だ！！　また海王星人の奴らが、冥王星に爆撃を仕掛けてきたぞ！」

冥王星 R124 地区

冥王星人達にとっての、首都のような場所。

「海王星人め……最近調子乗りやがって……」

「王よ、いかがなさいますか？」

R124 地区にあるでかい建物内。

そこには、二人の人間のような姿をした、生命体冥王星人が二人。

「……海王星は木星、金星と3星同盟を組んでおる。一方、我等同盟の天王星はもはや敗北状態」

「王……この冥王星も、時間の問題かと」

圧倒的軍事力を持つ海王星、資源豊かな木星、戦慣れした金星。

弱小星冥王星が落とされるのも、時間の問題だった。

「……火星と土星、水星は静観の立場を貫いておる。……こうなったら、唯一この銀河戦争に参加していない、あの地球に助けを求めるしかないな」

「王……地球はまだ、宇宙外交が全くの未発達の星。UFOごときでワーワー騒いでる星なのですよ？」

地球……それは、冥王星人にとって全くの未知の星である。

「……地球には我の娘、ナリを向かわせる」

「王……！」

「今は……これしかないんだ……」

冥王星を守るため。

地球、日本、群馬県はある町。

「ふあゝあ、今日もいい天気だ」

今日の天気は晴れ。

「暖かいなゝ、なんだか眠くなりそうだ」

そうやってあくびをしているこの少年の名は、徳川<sup>とくがわ</sup>一光<sup>かずみつ</sup>。

平凡な高校二年生だ。

「ふうゝ、電車までまだ時間あるし、ゆっくり歩いて行くか」

学校へ行くため、ゆっくりと駅へと向かう一光。



「何なんだ、これ……」

濛々と立ち込める砂埃。

そして、その向こうには……。

「ふ、不時着成功です!!」

「……………」

砂埃の向こうには、薄橙色の髪をなびかせた一人の女性の姿があった。

「なっ……に、人間？」

その姿はまさに人間。

「やっと着きま……あれ？　どこどこ？」

辺りをキョロキョロと見渡す女性。

しかし、一光の頭では違う事を考えていた。

（そ、空から人がっ!?!）

その時、偶然こっちを向いた女性と一光の目が合った。

（あ……）

すると、女性はニツコリと微笑んだ。

「あ、地球人第一号見つけました!!」

次の瞬間!!

「早速冥王星へ行きましょう!!」

「え？」

気付いたら、何故か空中にいた一光。

空、飛んでいます。

「え……えええええ……!!?」

突然のありえない事態に目を丸くし、なるがままに空を飛ぶ一光。  
体が重力に反発するような感じで、どんどん空高く上っていく。

「何？ え、何!？」

パニクる。

「安心して下さい!!」

「は!？」

突然の声。

その声は右側から。

一光は右へ振り向く。

「大気圏では燃えないよう設定してありますし、宇宙での酸素も確保しています!!」

そこには、先程空から降ってきた女性。  
同じく飛行中。

「え、何? 一体何なんですかコレ!? ってかあなた誰!？」

一光はまだパニック中。

「あ、申し遅れましたね。私、冥王星第一女王のナリ・アカナスタ  
||リアーネシスと申します!!」

「……はい？」

女性——ナリはニッコリの笑顔。

一方の一光はフリーズ。

「今から貴方を地球代表として冥王星へご招待します!!」

「……………」

絶賛フリーズ中。

しかしナリは続ける。

「あ、途中木星の近くを通るので、奇襲には気をつけてくださいね  
！」

「……………」

一光は何となく下を向いた。  
そう、何となく。

そして、そこに見えたのは…………。

「……………あれ？」

そこには、青色の球体が…………。  
ちなみに辺りは真っ暗。

「あ、もう大気圏は突破しましたから。もうすぐ火星付近ですよ」

「……………」

一光、この事態を理解するのに約20秒掛かった。  
で、

「俺、今宇宙にいるううう…………!!?」

絶叫した。

「嘘だろ……今俺、宇宙人に拉致られてる……」

それからの一光は大人しいものだった。

「これは夢か？ 夢なのか？ 宇宙人なんて、実際にいるわけが……」

視線を右側へ。

そこには、薄橙色の髪をした女性が笑顔で飛んでいた。

「……信じられない」

学校へ行くはずが、何故か宇宙にいる一光。

もはやファンタジック!!

一方のナリは……

「もうすぐで木星領域……サーチマインドを掛けないと……」

何やら変な機械をいじっていた。

その時!!

「掛かれっ!!」

ドッカァンンン!!

「え？」

「何？」

宇宙で突然の爆発。

そして

「覚悟っ!!」

「はっ？」

一光の目の前に、緑色の髪をしたゴツイ男性の姿。



30年前――

当時の金星王バルバ・ルバル・バルバ5世が、当時の太陽王国と戦争を起こした。

理由は長年のとある条約を、太陽側が強引に解約したからである。

太陽はどの惑星よりも軍が強く、この宇宙で1番強い星。

金星側としては、太陽に怒りの攻撃をしたいものの、このままでは返り討ち100%。

そこで金星王は考えた。

「太陽以外の全ての星を仲間にしちゃえば、太陽VSその他全ての星って事で、少しは話になるのではないか？」

で、元々仲の良かった海王星と木星の2星と同盟を組み、片っ端から星の占領に入ったのだ。

しかし、他の星は

「太陽と戦うだと？ 勘弁してくれよ」

的な感じで、金星との同盟を拒否。

で、金星は

「なら、力ずくでも仲間にさせてやる」

と、各星に対し宣戦布告したのだ。

「何それ？ 何のSF小説!？」

的確なツッコミ一光。

「気をつけて下さい…… 木星人の能力は……」

「能力って何!？ やっぱりSF!？」

その時

「覚悟しろ冥王星人！！ と、その他1人！！」

そして――

ストームダンス  
「嵐舞！！」

中2的ネーミングセンスの技名を叫んだ木星人。

そして、手のビームセイバー的な武器を一降り。

その瞬間！！

ゴゴゴワアアアアアッ！！

「うわっ！？」

突然の突風！！

「気をつけて下さい！ 木星人の能力は風使い！！ 無重力の宇宙で突風に吹かれたら、遙か彼方まで飛ばされてしまいますぅ」

と言いながら、遙か彼方へ飛ばされかけてるナリ。

「お、おいつ！！」

たまたま風の外にいた一光は、しっかりとナリの腕を掴んだ。

「大丈夫かアンタ？」

「す、すみません地球人代表さん!!」

よっこいせつと、ナリを引っ張る一光。

「相手は二人……両方とも木星人、つまりは風使い……」

うゝん……と考え込むナリ。

「ヘッヘッへ、木星人をナメるなよっ!!」

木星人は再びビームセイバー的な武器を構える。

「ちよっ、相手構えてますよ!？」

「うゝん……」

ナリは考えながらビームセイバー的な武器を構えた。

「ヘッヘッへ!! 行くぜ!!  
エアスラッシュ 風刃!!」

木星人は再びビームセイバー的な武器を振るう。

すると、武器から三日月状の風が現れ……

ガキンッ!!

「うわっ!!」

ナリの武器に激突!!

「か、かまいたち鎌鼬かコレ」

一光はビックリ!!

「嵐舞に風刃……両方とも遠距離攻撃、冥王星人の能力とは相性が悪すぎ!」

ナリは何やらばやき中。

「ヘッヘッへ、どんどん行くぜ!! 嵐舞!!」

ゴゴゴワアアアアアツツ!!

「うつ……凄い風、地球人代表さん、大丈夫ですか?」

「き、キツイ……」

無重力では踏ん張れないため、体を前に出し風に耐える2人。

しかし、一般地球人の一光にとって、これはかなりツラかった。

「ヘッヘッへ、風刃！」

ヒュンッ！！

ガキンッ！！

「うつ……」

再び鎌鼬を武器で受け止めるナリ。

しかし……

「うつゝ……」

地球人一光、限界が近かった。

「地球人代表さんしつかり！！……うつ、せめて嵐舞と風刃、どつちが来るか分かれれば、私の能力で……」

その時

「風刃！！」

ヒュンッ！！

木星人の放った鎌鼬。  
それが……

バチッ

「痛っ」

ナリの右手に直撃!!

ビームセイバー的武器を落としてしまった!!

「あっ!!」

で、それがたまたま一光の手の中へ。

その瞬間!!

ドクンッ ドクンッ

「うおっ!!」

武器を持った一光の手が光り出し、一光の中に何かが芽生えた。

「あ……ち、地球人アヒリテイスーパーに能力刀が……ってあれ？」

ナリの頭上には？マークがひとつ。

「地球人の能力って……何？」

一方の一光は

「何だコレ……熱っ……ん？」

一光の耳に、何かが聞こえた。

『次は嵐舞を撃つてやる!!』

嵐舞……

そして、木星人は武器——能力刀を構えた。

まさか……

「冥王星人、突風攻撃が来るぞ!!」

「えっ？」

次の瞬間

「ヘッヘッへ、嵐舞！」

ゴゴゴワアアアアアツツ!!

「くっ……」

一光はナリの近くへ。

その時

『次は風刃だ!!』

頭の奥に響くような、不思議な感じ。

「冥王星人、次は鎌鼬だ。多分鎌鼬が来る」

「地球人代表さん、もしかして分か——」

ナリは目を輝かせながら、何かを言いかけたその時

「ヘッヘッへ、風刃！」

ヒュンッ!!

「凄い!!」

ナリはホルダーから二本目の能力刀を取り出すと、ガキンツと鎌鼬を受け止める。

「地球人代表さん、分かるんですか？ 相手の攻撃!？」

「いや……何と言うか、相手の考えが聞こえるって言うか……」

一光自身、よくわかっていなかったり。

「それって……心聴!? もしかして地球人の能力って、相手の心を読む能力!？」

「……………」

一光自身、やはりよくわかっていない。

その時

『次の風刃で決めてやるぜ!!』

一光の頭に響く声。

「冥王星人、次の鎌鼬で決めるって……」

「風刃ですね、了解です!!」

軽快にその場から飛び立つナリ。

「ヘッヘッへ、これで終いだ風刃!!」

ヒュンッ!!

木星人の刀から放たれる鎌鼬。

「はっ!!」

ナリはその鎌鼬を楽々かわす。

「え!!!?」

木星人ア然。

そして――

「えいつ!!」

ナリの刀が、木星人の体に触れた。

フォールダウン  
「電磁重力!!」

ナリがそう叫んだ途端！

「ぐわっ！！」

マツハの速度で、木星人は宇宙の下に落ちて行く。

「冥王星人の能力は重力操作。無重力の宇宙で使えばこの空間に重力を作り、ひたすら下へ落とすのです！！」

えっ ほんと、仁王立ちするナリ。

「ひ、ひい！！」

もう一人の木星人は逃亡！！  
へっぴり腰！！

「す、凄い……」

一光ア然。

「さあ、地球人代表さん、冥王星へ行きましょう！！」

ナリは笑顔。

「……拒否は……出来るのかな？」

「さあ、行きましょう！！」

地球人一光、冥王星へ拉致られる。

地球人、宇宙戦争に参加。

しかし、この事が後の宇宙大戦争の運命を分けていく事になるのだ。

（後書き）

いかがでしたでしょうか！？

次回、秋の短編祭り第三弾は下ネタ注意なギャグ系小説の続編「続・生徒会なんです、これでも」。

続じゃない普通の「生徒会なんです、これでも」は既に掲載済みなので、良かったらそちらもどうぞ！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5288o/>

---

冥王星をよろしく！

2010年10月26日23時14分発行